

ふれあい放水路

お知らせ

河床を保護する工事を着々と進めています

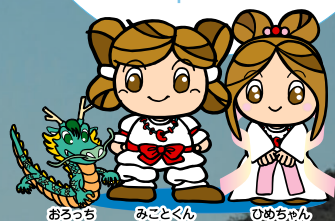
上塩冶地区河床整備工事 現場代理人にうかがいました

神戸川中流部（合流部～神戸橋）の工事の変遷

2013 平成25年
ふれあい放水路

vol. 203

Izumo Office of river
Chugoku Regional
Development Bureau



おろちろ みことくん ひめちゃん

新年のご挨拶



平成二十五年の年頭にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

平素より、斐伊川放水路事業の推進にあたり、地域の皆様をはじめ、関係の方々の多大なご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、三月末に尾原ダムが完成し、志津見ダムと併せた二ダムの運用が始まりました。七月六日から七日にかけての出水時には洪水調節を実施し、また、渇水時には、利水補給により、灌漑用水等の確保に貢献することが出来ました。下流部の大橋川改修についても、地元協議等を進め、三箇所において工事が本格化する状況です。

放水路事業におきましては、平成二十四年度完成に向けた工事が進められています。斐伊川の洪水の一部を神戸川に流す分流堰もほぼ完成し、現在、開削部の河床保護工事等、完成に向けて必要な工事を鋭意進めているところです。

本年は、いよいよ放水路の完成、運用開始の節目の年となります。完成に向け、引き続き開削部の河床保護工事の整備や残りの堤防や護岸等の整備を全力で進めてまいります。

引き続き皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

国土交通省 出雲河川事務所長 舘 健一郎

神戸川中流部（合流部～神戸橋）の工事の変遷

中流部においては、下流部と同じく新しい堤防をつくり、川幅を広げました。それに合わせて古志大橋をはじめとした橋梁などの構造物も新たに付け替えています。神戸堰については、旧神戸堰の美しいアーチを復元したデザインとし、両側には魚道を設置して生き物にもやさしい堰としています。



神戸堰

▶平成6年撮影



旧神戸堰は昭和3年に完成した農業用取水堰で、当時の農業施設としては珍しい多連アーチ型の鉄筋コンクリート構造物であり、日本の近代土木遺産にも認定されていました。

▶平成24年撮影



新しい神戸堰は平成22年から運用を開始しました。旧神戸堰のアーチ一連部分（約10m）は、神戸橋下流高松地区に移設されモニュメントとして残されています。

古志大橋

▶平成6年撮影



昭和7年に架けられたコンクリート製の古志橋。当時は国道9号の神戸橋に次ぐ交通量を誇っていましたが、橋の幅が狭く、大型車の通行による渋滞が度々起こっていました。

▶平成24年撮影



古志橋は平成13年4月に古志大橋として新しくなりました。長さ300mの真っ赤なアーチ橋となり、歩道が両側に設けられ、車道も7.5mと広くなりました。

工事の発注情報

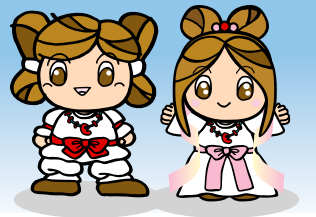
- 斐伊川放水路管沢地区用地整備工事
H24.12.5～H25.2.28 ヒロシ(株)
- 斐伊川放水路下流部工事用道路整備外工事
H24.12.4～H25.2.28 (株)土井豆組

- 斐伊川放水路上流部工事用道路地整備外工事
H24.11.28～H25.2.28 大和建設(株)

国土交通省中国地方整備局 出雲河川事務所

〒693-0023 出雲市塩冶町有原町5-1 tel (0853) 21-1850 fax (0853) 22-7829
E-mail: izumo@cgr.mlit.go.jp ホームページ <http://www.cgr.mlit.go.jp/izumokasen/>

河床を保護する工事を着々と進めています



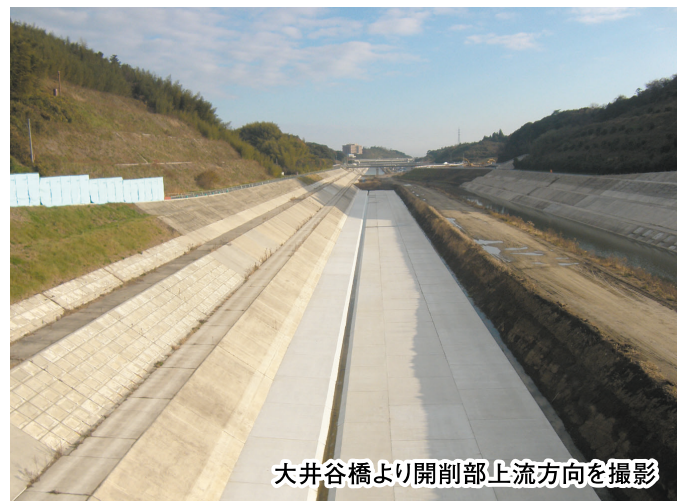
斐伊川放水路開削部では、河床をコンクリートで覆う「河床保護工」を進めています。これは、洪水をスムーズに流すために河床の凹凸を少なくし、滑りをよくするため、また開削部の風化しやすい地表面を保護し、河床形状の変形を防ぐためのものです。平成24年8月以降は、それまで工事用道路として利用していた中央部を掘削し、コンクリートの打設が進み、工事も佳境をむかえています。



河床保護工とは

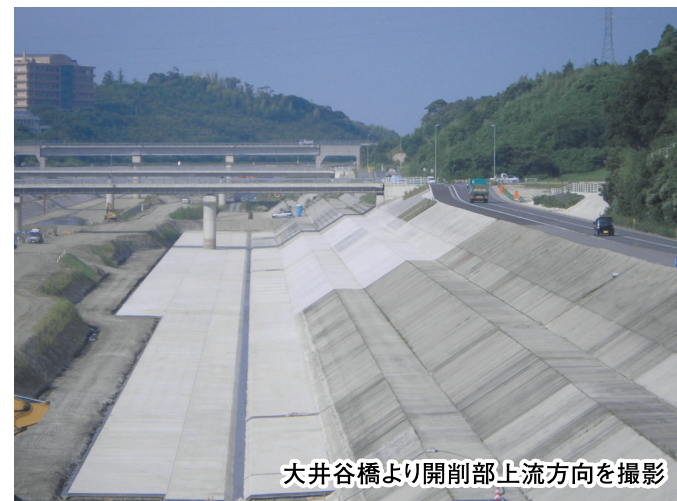
開削部の岩が風化しやすい岩質であるため、乾湿を繰り返すと土砂化して河床の形状が変わることとなります。そのため、コンクリートで覆うことにより地表面を保護し、河床形状の変形を防ぐものです。

平成24年4月末の状況



大井谷橋より開削部上流方向を撮影
主に開削部右岸の工事が進みました。

平成24年7月末の状況



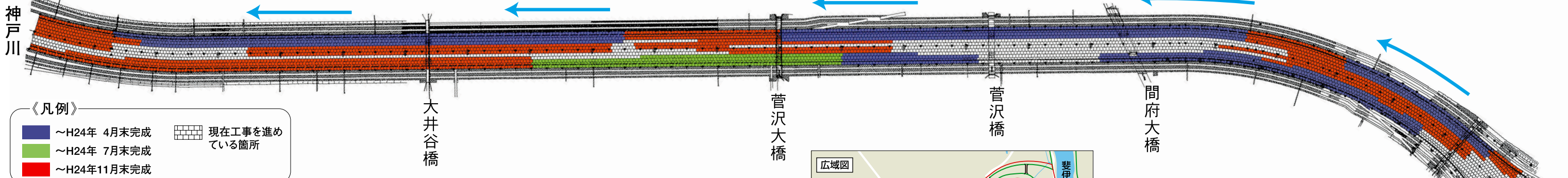
大井谷橋より開削部上流方向を撮影
主に開削部左岸の工事が進みました。

平成24年11月末の状況



大井谷橋より開削部上流方向を撮影
以前工事用道路だった開削部中央の工事が進んでいます。

河床保護工の進捗状況 (平成24年12月1日現在)



上塩冶地区 河床整備工事

現場代理人にうかがいました



株式会社フクダ
現場代理人
畑原 和朋さん

進捗率を上げるために工夫した点、また周辺への影響を緩和するために取り組んだことがありますか？

地山掘削が約5万7千m³とありましたが、中国地方に数台しか無い大型機械を使用して1日あたりの掘削施工量を伸ばしました。

また、大型油圧ブレーカーを使用し岩盤掘削を行う事が多いのですが、その大型機械に1本爪(リッパー)を設置して掘削を行うことにより、騒音(破碎音)の低減を図りました。

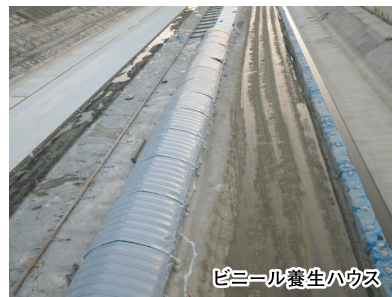


安全管理の面で工夫した点は？

土砂運搬車両においては、毎朝のアルコールチェック、定期的にスピードガンによる運行速度の測定、過積載防止の為の運搬時重量測定を行いました。

冬場の現場で工夫することはありますか？

コンクリート打設後、ビニール養生ハウスを設置し、ハウス内をジェットヒーターで加温することにより、コンクリートの凍結を防ぎます。



開削部の工事の変遷

丘陵地だったところを開削し、放水路を建設しています。開削によって発生した大量の土砂は、新しい堤防の材料として利用したり、開削部南側の谷(A谷・B谷・C谷)を盛土し、有効利用するグリーンステップ事業に活用しています。盛土した斜面には、1000年の森づくり植樹祭の取り組みにより、新たな森が形成されています。

